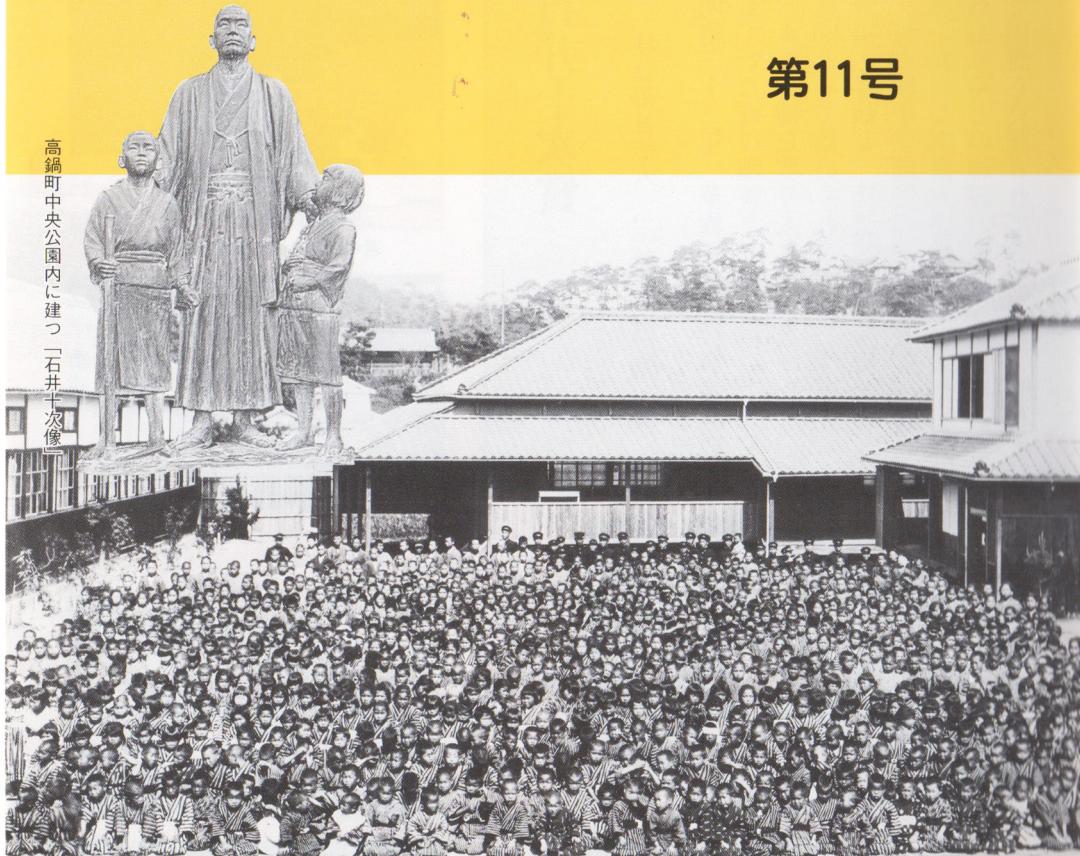


石井十次顕彰会だより

第11号



1200人余りの孤児で一杯の岡山孤児院(明治40年・西暦1907年)

財団法人 石井十次顕彰会

多額のご寄付をいただき ありがとうございました。
厚くお礼申し上げます。

寄付者報告第十号

平成十二年四月一日～
十三年三月三十一日

篤志寄付

立正佼成会高鍋教会 久保 勝代様
高鍋町 谷川陞紀様
今村稜子様 尾崎一男様
高鍋ライオンズクラブ 小沢 浩一様
増田工務店 増田 秀文様
高鍋信用金庫 川南町 萩田留理子様
新富町 正幸会
(株)印刷センタークロダ 三木 健一様
忌明寄付 原田 安政様
高鍋町 肱岡みどり様 後藤 栄士様
谷川 享子様 中村マサノ様 岩切 泰彦様
川南町 宮崎市
黒木本店 増田工務店
藤間亀舟社中 今村稜子様
黒木敏之様
藤間 亀舟様

寄付者報告第十一号

平成十三年四月一日～
十四年三月三十一日

篤志寄付

立正佼成会高鍋教会 久保 勝代様
高鍋町 藤間亀舟社中 今村稜子様
黒木本店 増田工務店
藤間 亀舟様
黒木敏之様
藤間 亀舟様
高鍋町 宮崎市
黒木敏之様
藤間 亀舟様
高鍋町 押川南海子様 長友 吉人様
沼 熊夫様 金橋 和英様 片平ハルエ様
黒木敏之様
藤間 亀舟様

財団法人 石井十次顕彰会

〒884-0006
宮崎県兒湯郡高鍋町大字上江1138番地
TEL 0983-23-4312



創始者野口幽香と第2代徳永恕



現在の理事長 梅森公代



養護施設 二葉学園



養護施設 二葉学園
緊急的問題に即対応しての職員会議



くすのき保育園 先生の手作り玩具
年齢相応のものを工夫

第11回 石井十次賞

平成十四年四月十一日

財団法人 石井十次顕彰会

年運営を徳永恕へ昭和四十八年梅森公代にひきつぎ現在は二葉乳児院 二葉南元保育園 養護施設二葉学園 二葉くすのき保育園の四施設において一貫して子供の自発性と自然との触れ合いを重んじ健康な体と豊かな心を育て自立して生活できるよう育成に努めその数は百年にわたり七千六百人を超えております。このことは正に石井十次の理念に沿った偉業であり心から敬意を表し、ここに第十一回石井十次賞を贈りその功績を讃えます。

貴園は明治三十三年 華族女学校付属幼稚園に勤務していた野口幽香と森島美根によってフレーベルの精神を取り入れ、貧民のための慈善幼稚園として始められました。麹町から四谷鮫河橋へ移転し、社会制度の変化に応じて分園 母の家小学部等の設置を経て、保育園に名称を変更し関東大震災 東京大空襲の二回にわたり殆どの施設の崩壊 焼失に遭つたがよく困難を克服されてきました。昭和十

石井十次賞

社会福祉法人 二葉保育園 様



尾崎理事長より賞状を梅森理事長へ



選考経過を述べる福田垂穂氏



100周年記念新装の二葉乳児院



二葉乳児院 園児たち



二葉くすのき保育園の園児たち

平成四年の第一回石井十次賞（北海道家庭学校）以来、第十一回（二葉保育園）となり、平成十四年四月十一日に、その贈呈式を行いました。
併せて、当日会場で発表された小中高校生の文章をお届けします。



「縄の帯」

高鍋東中学校 3年 猪又愛美

石井十次先生の行動の中で、私の心に一番強く残っていること、それは村で行われた祭りの時に起こったことです。縄の帯を締めていたために、いじめられていた友達をかわいそうに思い、お母さんが一生懸命織ってくれたつむぎの帯と取り替えてあげたことです。歌にもあり、誰でも知っている話ですが、石井十次先生のことというと、私はどうしてもこの出来事をあげずにはいられません。石井十次先生は、少年時代からずっとこんなにも人を思いやる心を持っていたのでしょうか。もちろん、心の中では、いろんな考えが渦巻いていたことでしょう。「自分自身がいじめられるかもしれない。」「大切な友達を助けたい。」特に、このふたつの考えが激しく戦つたのではないか。そして、石井十次先生の心の中の戦いは、「友を助ける」側が勝利し、帯を取り替えるという行動をとったのでしょうか。

今、私たちの生きているこの時代では、たくさんの悲しい出来事や忌まわしい事件が起きています。その中で、何人の人が目の前で苦しみ、悲しんでいる人に手を差し伸べることができるでしょうか。残念ながら、私にはできる自信がありません。なぜなら、先ほど述べた心の戦いで「恐怖」の側が勝ってしまうと思うからです。もしかすると、いじめを苦にして、自らの消滅を選んでいく人たちを見ているだけになってしまふかもしれません。石井十次先生が今のこの社会を見たら、きっと嘆き悲しむことでしょう。先生の目指した優しい社会の面影は、まったくないといつても過言ではないほど、今の世の中は荒廃してしまっているところがあります。

時が流れるにつれて、世の中は移り変わっていきます。いつかこの世界も変わっていくでしょう。そして、それは良い方向へと変わるのでしょうか。その新しい社会を作っていくのは、きっと私たちの世代です。私たちは勇気をもって、新しい社会を作っていくことは絶対にできないと思います。しかし、仲間がいたらどうでしょう。一人では運べない重い荷物も、二人、三人で運べば楽に運べるように、みんなが集まればきっと社会を変えていけるはずです。

福祉という言葉が、よく口にされるこの時代。これから大切なのは、「人を思いやる心、何かを実行する勇気」だと思います。高齢化社会だ、少子化社会だ、と強調される今、「思いやりの心と勇気」は、人々が一番大切にすべきものではないでしょうか。私たちは、石井十次先生の勇気を、心を、もう一度見つめ直すべきところに来ているのではないかと思わずにはいられません。



石井十次先生の残したもの

高鍋東小学校 5年 笹岡崇臣

ぼくは今、高鍋町に住んでいてとても誇りに思います。なぜかというと、この高鍋町には「石井十次先生」という偉大なことをなしとげられた、すばらしい先生がいらっしゃるからです。

石井十次先生は、6、7才のころ、友達が縄の帯をつけていていじめられたのをかわいそうに思い、自分の母が作った大切な帯と交かんし、母にほめられたことから自分の志す道を決められたそうです。

また、石井十次先生が、あと数ヵ月で医者になるというときに「人間は2人の主に仕えることはできない」という教えを守り、6年間学んできた医書やノートに火を付け、孤児を救う道に進まれたそうです。

この2つの話を知ったとき、ぼくはとてもおどろきました。でも、石井十次先生は、子ども達のことが本当に好きで救ってあげたいという思いがとても強くあったからこそ、このようなすばらしいことができたんだと思います。

そして、総勢3千人の子どもを育てられたそうです。3千人の子どもたちを育てるには大変な苦労があったと思います。しかし、その苦労を子どもたちといつしょに働いたり、はげまし合ったりしながら乗りこえられたということに、ぼくはとても感動しました。

ぼくは、石井十次先生がなしとげられたことを学習して、1人1人が周りのことを思いやり、やさしくすることが大切だということに気づきました。ぼくは石井十次先生のような偉大なことはできないかもしれないけど、ボランティアやあいさつ等、身近なことから始めたいと思います。みんな小さなことでもいいから少しづつよいことをしていけば、大きなものになると思います。

いじめや差別が多い今、ほんのささいな思いやりから世界が少しずつ変わっていくのではないかと思います。そうやって石井十次先生の教えをこの高鍋町だけでなく、日本中、世界中に広げていったら、石井十次先生や世界のみんなが願う世界平和があとされるかもしれません。

これからも、石井十次先生の教えを忘れずに、ほんのささいな思いやりを心がけながら生活をしていきたいと思います。

いを思いやり助け合うという気持ちを忘れてしまった時、地球は本当に滅びてしまうかもしれません。こんな時、私達が未来への指針とすべきは、過去の偉人たちの業績であり、日本はもちろん世界にも誇れる高鍋町の偉人石井十次先生の生き様ではないでしょうか。

私の高校生活も残り1年ですが、自分を日頃から支えてくれている父母や兄弟、友人をはじめとする周囲の人々に感謝の気持ちを忘れず、今後の人生においても、多くの知らない人々との出会いを大切にし、石井十次先生の精神を胸に、人間として恥ずかしくない生き方をしていきたいと願っています。

英語スピーチ



高鍋東中学校 3年 池田 恵

高鍋西中学校 3年 坂本 勇樹



The life of Juji Ishii

Juji Ishii was born in 1865, in Babanoharu, Takanabe Town, in Miyazaki prefecture. Juji was an ambitious boy and wanted to be naval officer so he went to a school in Tokyo called Kogyokusha. But, a year later he fell ill and was not able to fulfill his dream.

He returned to his village and decided to work on the barren land with his friends but a typhoon came and destroyed everything.

He then changed jobs and worked as a secretary at the Miyazaki Police Office but even this job did not satisfy him. One day when he was sick, he met a doctor, Dodohei Ogiwara, who encouraged him to become a doctor.

When he was eighteen years old, Juji studied medicine and Christianity at the Koushu Medical Institute and went back to his hometown during the summer holidays.

In his town he established a school called Babano-haru-asaban-school where young villagers could study. During the day they would work in the fields and then study together at night. Juji was greatly respected by all the villagers. Thanks to Juji, many changes have been made to the Japanese welfare system. Children are protected by laws and those without parents are looked after in care centers. Juji's statue can be seen in Takanabe town. The people of Takanabe will never forget Juji's spirit.



「石井十次先生に学ぶ」

高鍋農業高等学校 食品化学科 3年 久保田 悟

毎朝新聞を読むのは私の日課となっていますが、そこには思わずため息をついてしまうような記事が掲載されています。政治家の不正汚職・不況に伴う失業者の増加・果てしなき民族紛争といったニュースが日常的となってしまった今日、「この先は、日本、世界、そしてこの美しい地球はどうなるのだろう?」そんな不安な考えを持っているのは私ばかりではないと思います。このような混沌とした時代において、高鍋町の誇る偉人・石井十次先生の精神はどのように活かされなければならないのか、私なりの考えを述べてみたいと思います。

私は高鍋町出身のため、石井十次先生のことを知ったのは早く、小学校時代のことでした。学校の授業で、「縄の帶」を始めとする逸話に触れ、心の優しい人といった程度の感想しか持てなかつたのですが、今回の発表にあたって、先生の50年の生涯について調べたところ、常に相手のことを思いやる精神を忘れず、強い信念を持って孤児救済にあたつた教育者・社会事業家としての姿が見えてきました。

私が感銘を受けたのは、若き日のキリスト教への入信に始まり、医学書を焼いて孤児救済に生涯をかけると誓った凄まじいまでの情熱、前原定一少年に始まる孤児との触れあいの中で常に子供達の視線に立とうとする人間的な奥深さ、印刷機の導入や音楽幻燈隊など最新の技術をためらうことなく導入する先進性などですが、農業高校に学ぶ私としては、先生が「自然」を主体として、多くの孤児と共に茶臼原の大地を開拓されたその精神には大変心ひかれるものがありました。

現在、私は高鍋農業高校の食品化学科で乳製品やお菓子類などの製造について学んでいます。将来の夢としては、製造関係の仕事につき、自信を持ってお客様に提供できる食品を送り出したいと考えています。しかし食料品を取り巻く状況は目をおいたくなるほどの厳しさです。BSE問題から雪印乳業の問題に至るまで、食に対する国民の不信感は極限まで達していると言えるでしょう。こんな時、常に相手の立場に自分を置いて、孤児達に限りない愛情を注ぎ続けた石井十次先生の精神が正しく受け継がれていれば、あのような問題は起らなかつたでしょう。

これからの21世紀は、食糧問題ばかりではなく、高齢化の進行に加え、オゾン層破壊や地球の温暖化など深刻な環境問題にも直面することになるわけですが、人間までが互